

中国地域の経済動向

(2025年10月の指標を中心に)

～持ち直しの動きの中で一部弱含んでいる～

2025年12月18日

(本発表資料のお問合せ先)
総務企画部企画調査課長 中野 伸二
電話：082-224-5633
メール：bzl-chugoku-chosa@meti.go.jp

～判断の推移～

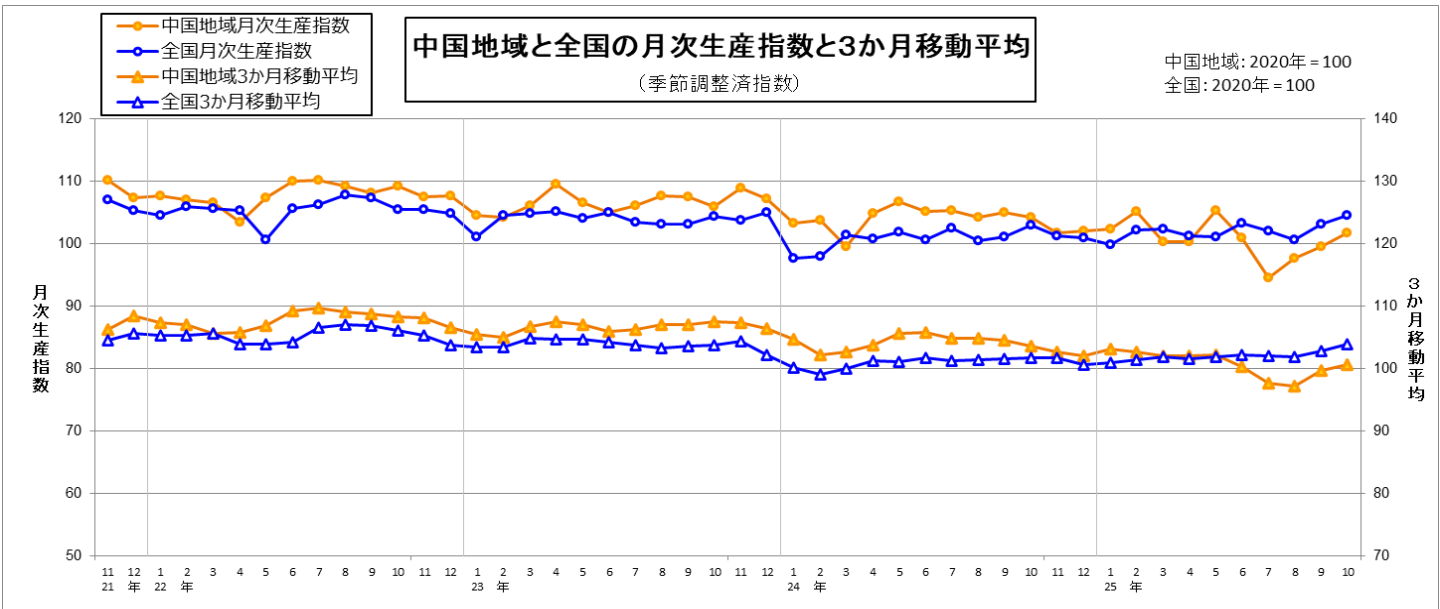
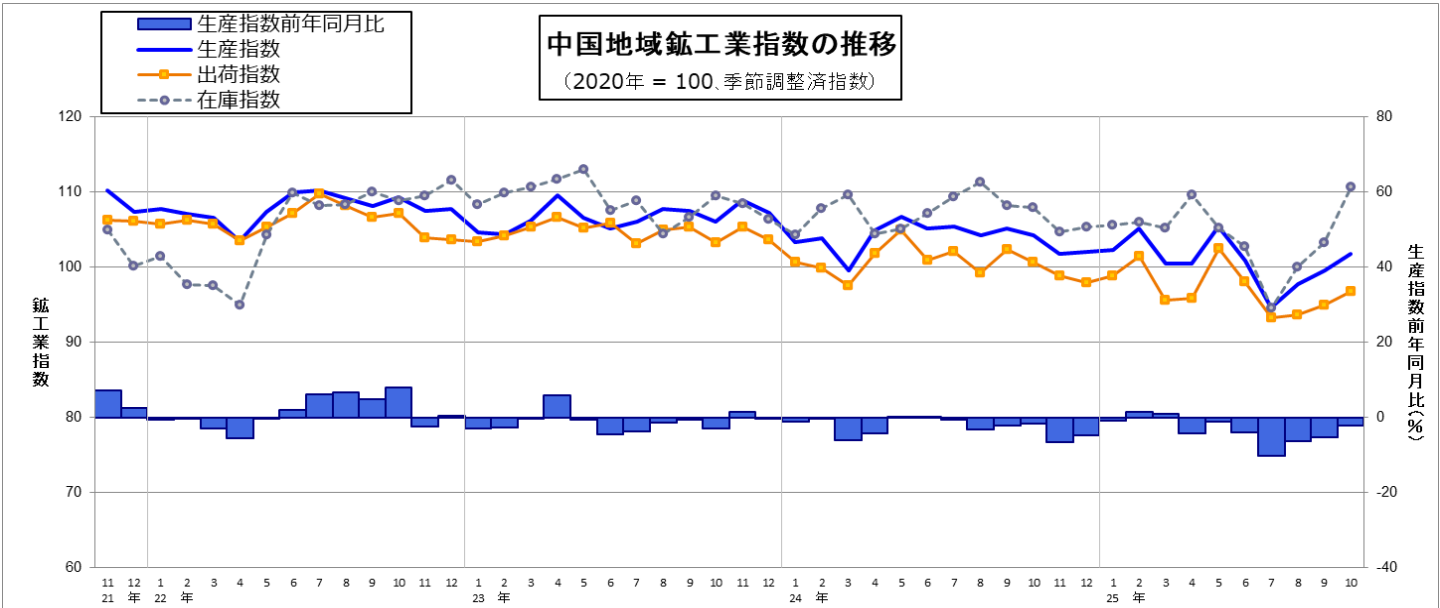
2025年11月（9月指標中心）		2025年12月（10月指標中心）
基調判断	持ち直しの動きの中で一部弱含んでいる	⇒
1. 生産動向	弱含みで推移	緩やかな持ち直しの動きがみられる
2. 個人消費	持ち直しの動きに足踏み感がみられる	⇒
3. 雇用	有効求人倍率は前月に比べ低下、新規求人数は前年同月比で減少	⇒
4. 景況感	現状、先行きともに前月に比べ上昇	⇒
5. 貿易	輸出、輸入ともに前年同月比で減少	輸出は前年同月比で減少、輸入は増加
6. 建設動向	公共工事は前年同月比で増加、住宅建設は前年同月比で減少	公共工事は前年同月比で減少、住宅建設は前年同月比で増加
7. 企業倒産	件数、負債総額とも前年同月比で減少	件数、負債総額とも前年同月比で増加
8. 設備投資	2025年度計画は前年度を上回る見込み	⇒

1. 生産動向 ～緩やかな持ち直しの動きがみられる～


2025年10月の鉱工業生産指数は101.8、前月比2.3%の上昇となった（2020年＝100、季節調整済）。

生産を業種別にみると、汎用・業務用機械工業、自動車（乗用車・トラック・主要部品）、食料品・たばこ工業などが上昇し、生産用機械工業、化学工業（除、医薬品）、石油・石炭製品工業などが低下した。

【主要業種の動向】
自動車（乗用車・トラック・主要部品）は、モデルチェンジした一部車種の生産が本格化し水準が上昇傾向。汎用・業務用機械工業は、高い水準で推移する中、海外向け大型機械の生産もあったことから大きく上昇。化学工業（除、医薬品）は、需給環境が悪化し低い水準で推移する中、定期修理の影響もあり低下。



詳細データはこちらから



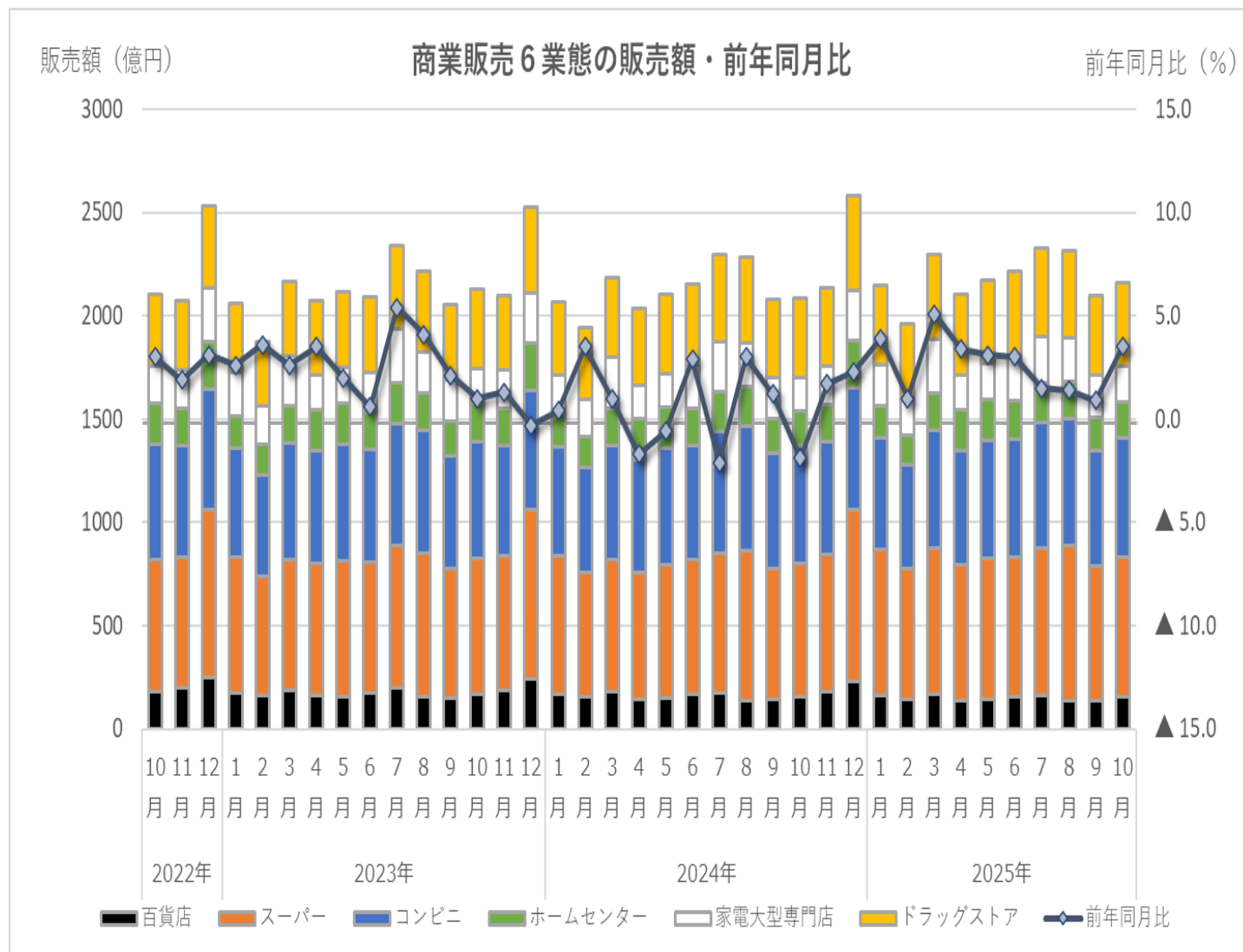
2. 個人消費 ～持ち直しの動きに足踏み感がみられる～

2025年10月の商業6業態の販売額は2,159億円で、前年同月比3.5%と12か月連続で前年を上回った。

	6業態に おける構成比	販売額	前年同月比		前月の 前年同月比
6業態		215,936	3.5	12か月連続プラス	0.9
百貨店	7.3%	15,749	1.8	2か月ぶりにプラス	▲ 3.7
スーパー	31.4%	67,728	5.0	12か月連続プラス	3.2
コンビニエンスストア	26.7%	57,598	1.2	2か月ぶりにプラス	▲ 0.0
ホームセンター	7.9%	17,022	▲ 1.4	3か月連続マイナス	▲ 4.7
家電大型専門店	8.0%	17,305	10.5	3か月連続プラス	2.1
ドラッグストア	18.8%	40,534	4.5	46か月連続プラス	2.1

	店舗数	前年同月比
百貨店	12	0.0 %
スーパー	339	3.0 %
コンビニエンスストア	3,047	▲ 0.3 %
ホームセンター	402	0.5 %
家電大型専門店	177	1.7 %
ドラッグストア	1,067	2.8 %

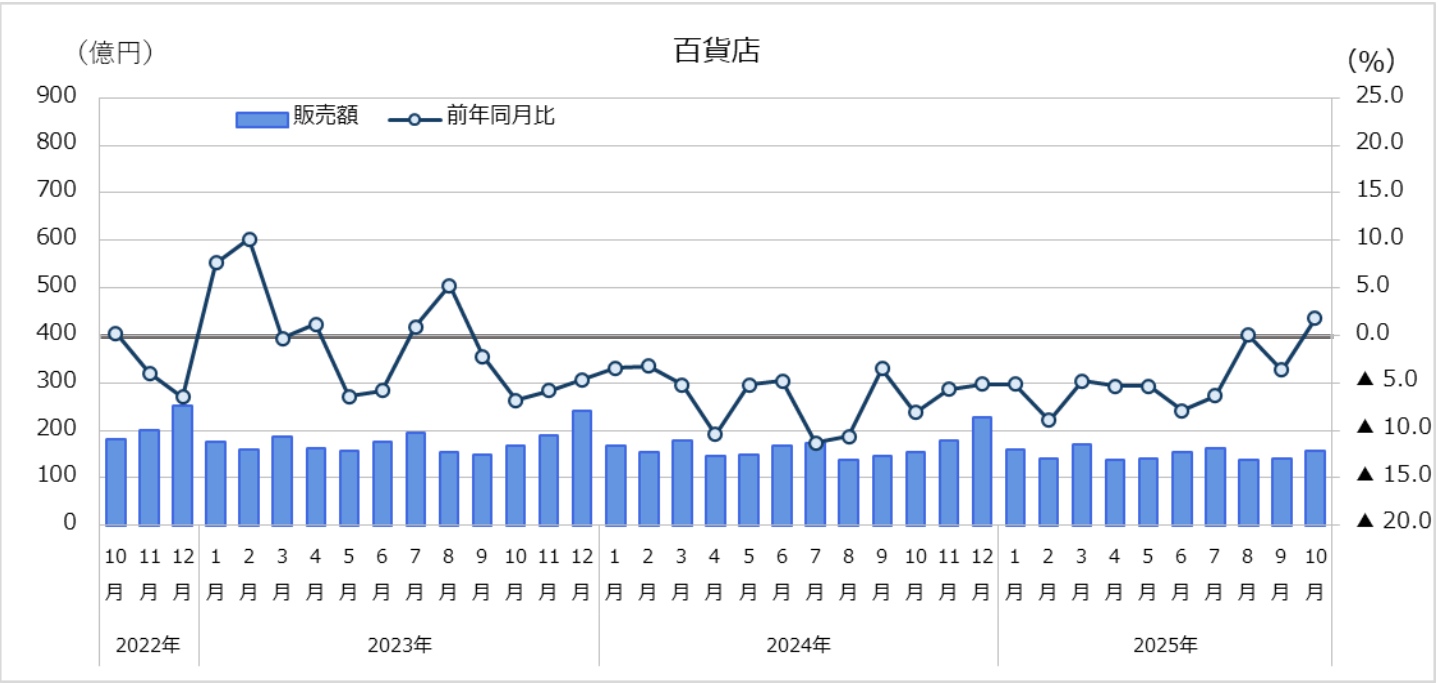
その他のデータはこちらから



2. 個人消費

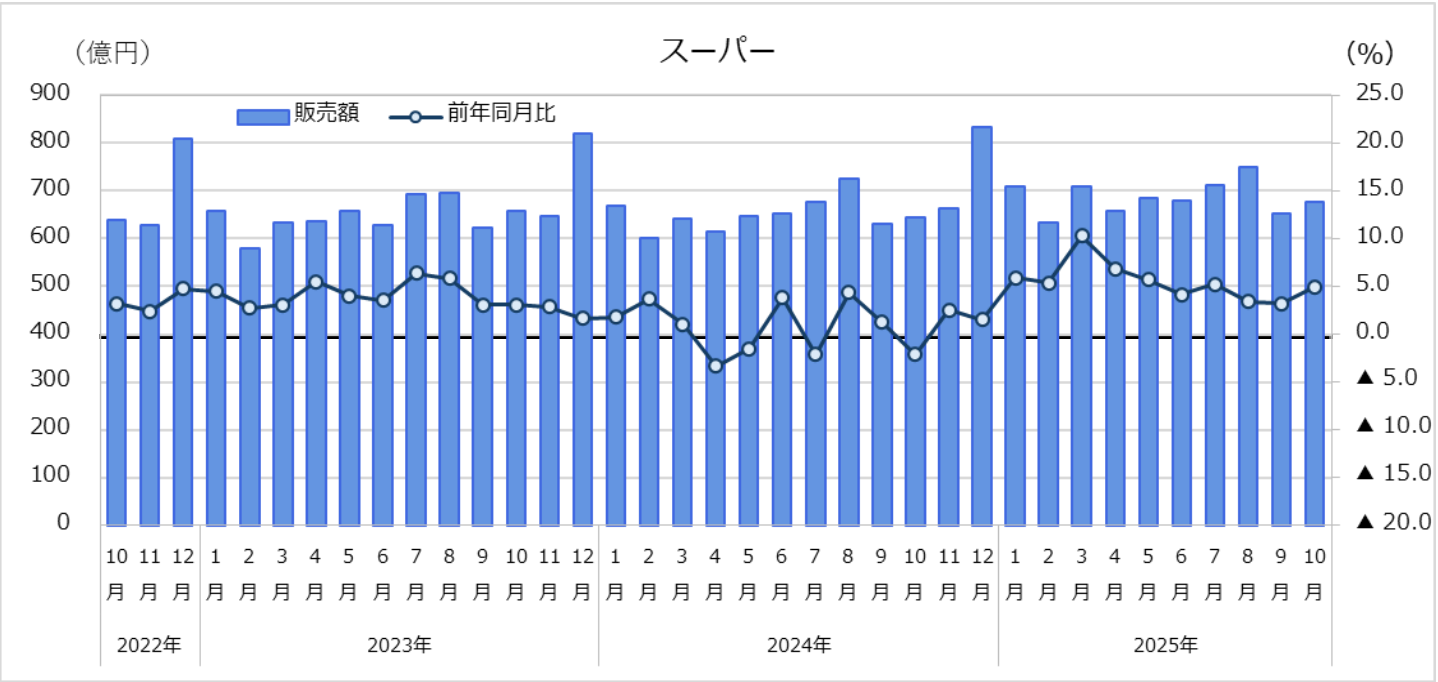
(1)百貨店の状況

ハンドバッグなど、ラグジュアリーの身の回り品が好調だったほか、家具が好調だった。また、飲食料品は催事が好調だった。そのほか、衣料品は前半の気温高で秋物が低調だったものの、気温低下により後半からは冬物に動きがみられた。



(2)スーパーの状況

価格上昇により米、卵の売上が増加したほか、豊漁によりさんまが好調だった。また、前半の気温高により殺虫剤が好調だったが、後半からは気温低下によりカイロ、秋冬物の衣料品のほか、おでんや鍋材料に動きがみられた。



詳細データはこちらから

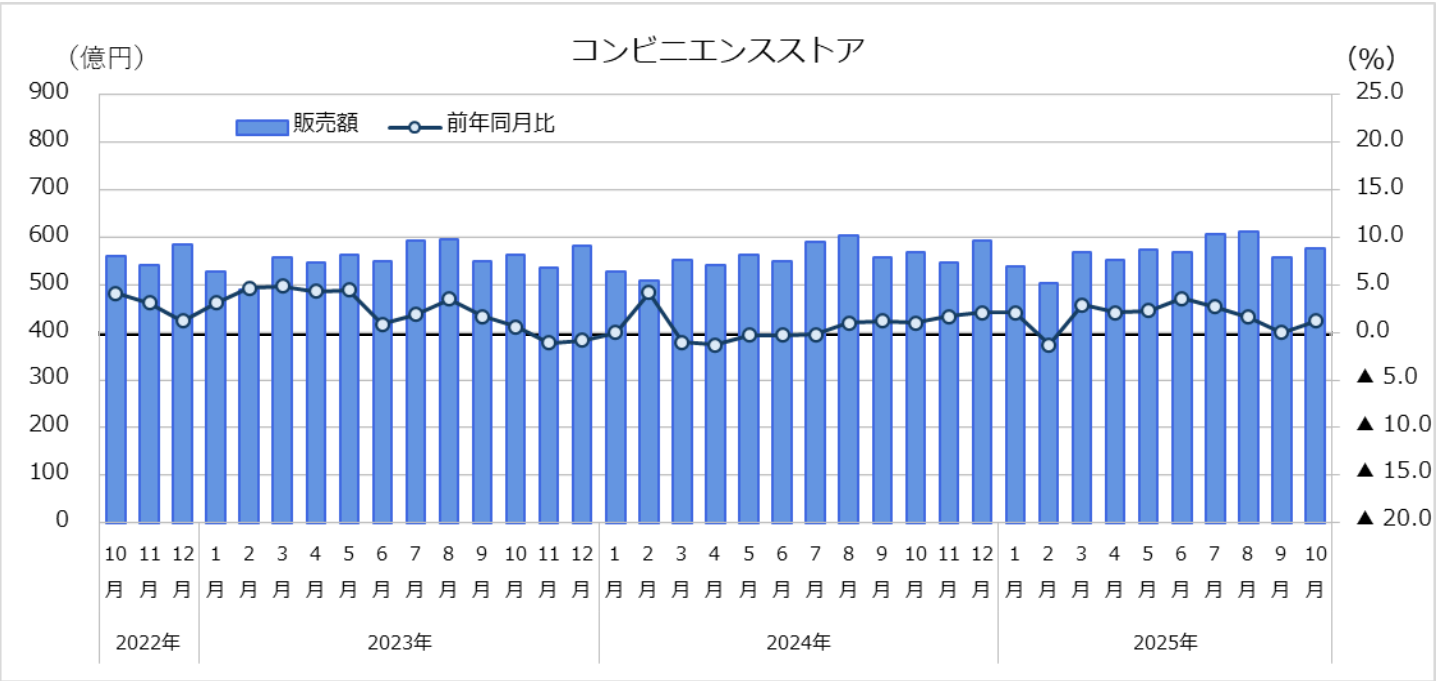


(資料) 「商業動態統計調査」(経済産業省)
「中国地域百貨店・スーパー販売動向」(中国経済産業局)

2. 個人消費

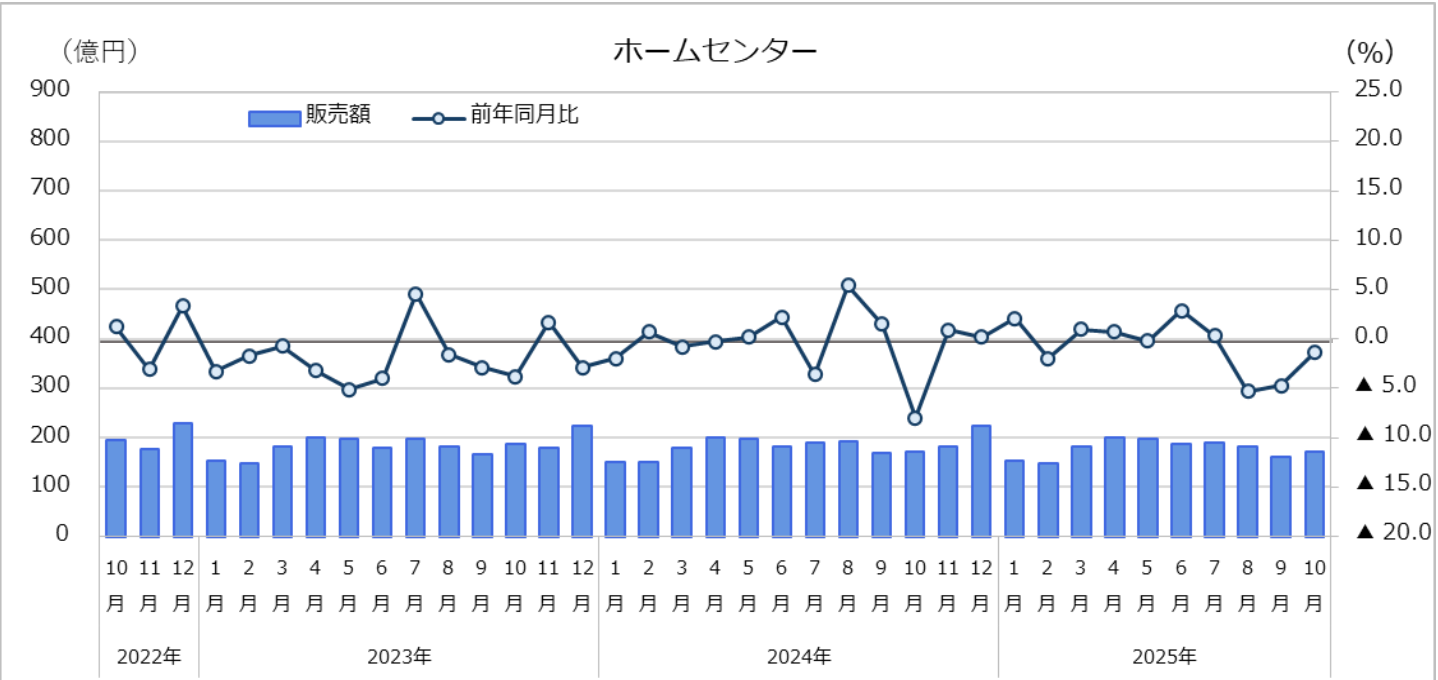
(3)コンビニエンスストアの状況

価格上昇によりおにぎりや菓子の売上が増加したほか、販売促進効果でパンが好調だった。また、後半からの気温低下によりカップ麺が好調だった一方、価格上昇の影響もあり飲料の動きが鈍かった。



(4)ホームセンターの状況

物価高による節約志向の高まりや前年の反動で、塗料や工具・金物類などのDIY用品が低調だった。また、ペット用品の動きが鈍かった。一方、価格上昇により米の売上が増加したほか、後半からの気温低下により暖房用品や灯油に動きがみられた。

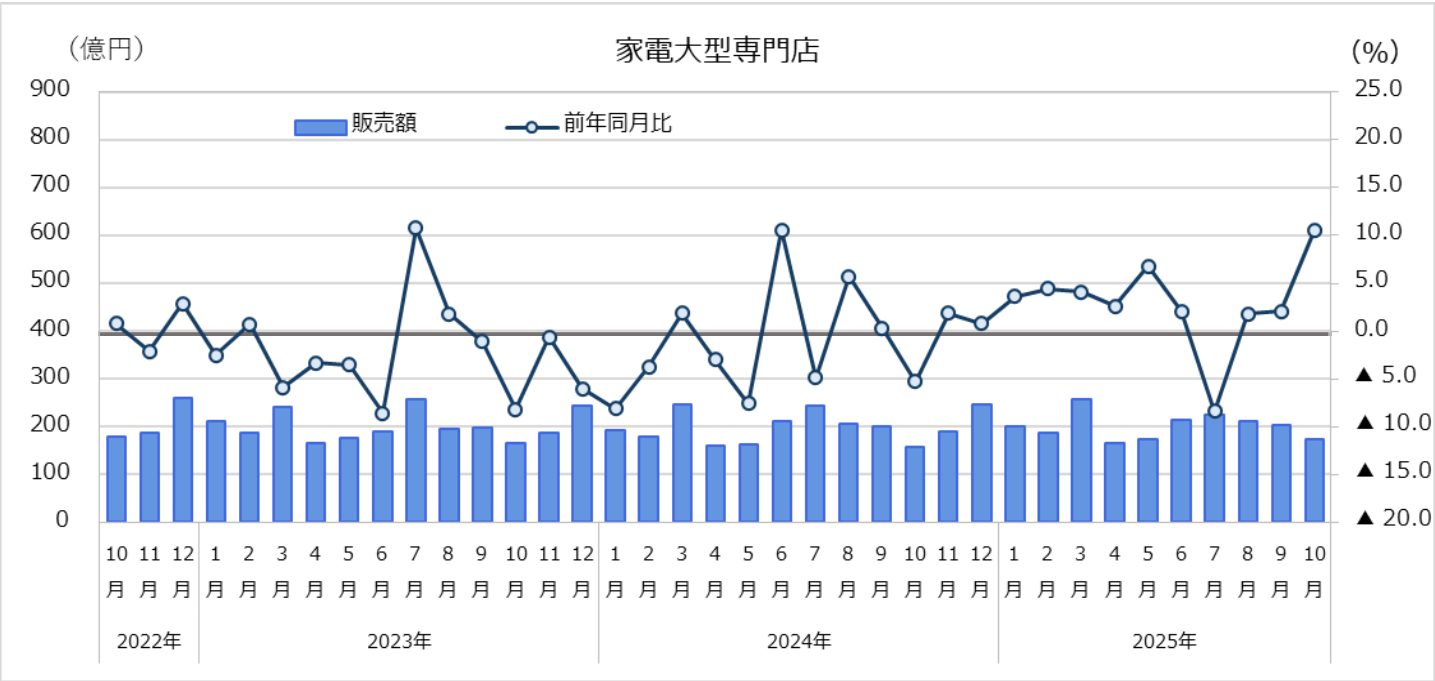


(資料) 「商業動態統計調査」 (経済産業省)

2. 個人消費

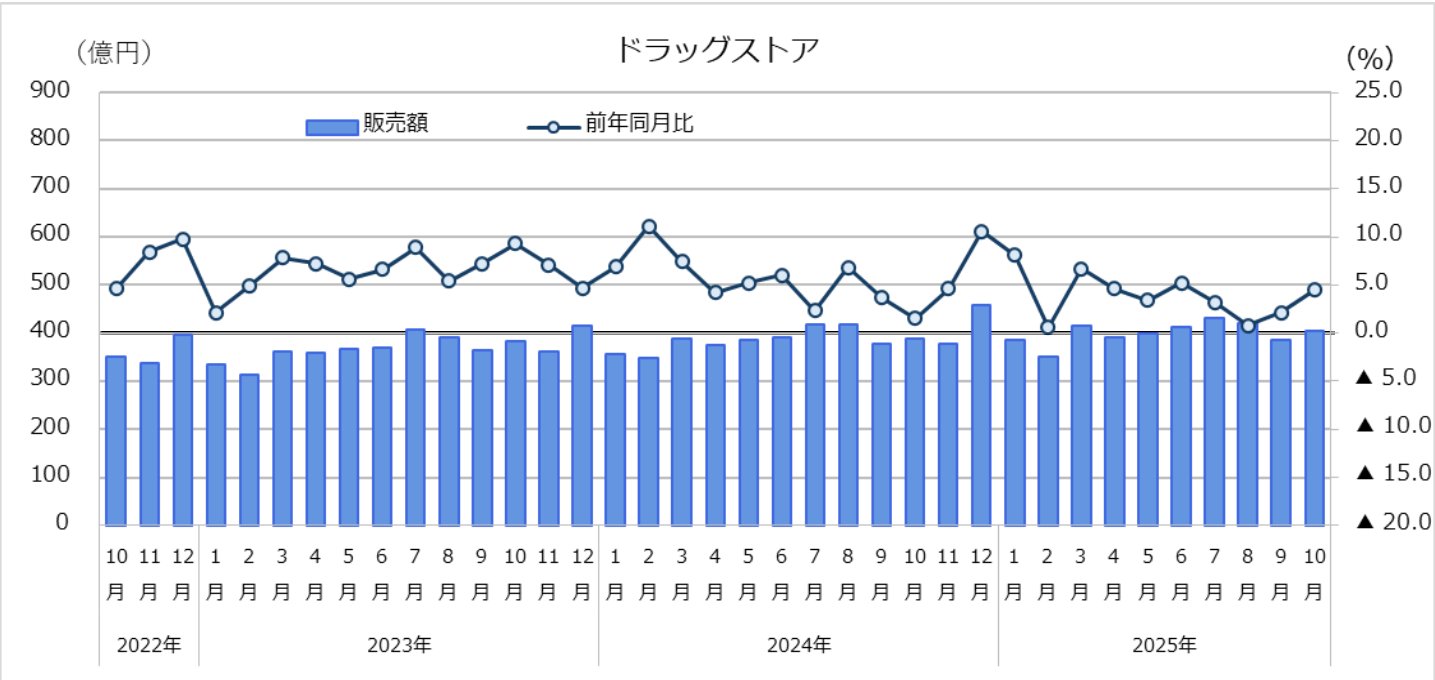
(5)家電大型専門店の状況

引き続きosのサポート終了に伴う買い換え需要でパソコンが好調だった。また、販売促進効果により携帯電話が好調だったほか、高単価なモデルが好調だったテレビにも動きがみられた。



(6)ドラッグストアの状況

価格上昇により米や飲料、衣料用洗剤の売上が増加したほか、開局した調剤薬局の認知度向上により、調剤医薬品が好調だった。一方、前半の気温高によりリップやハンドクリームは伸び悩んだ。



(資料) 「商業動態統計調査」 (経済産業省)

2. 個人消費

●乗用車新車登録・届出数

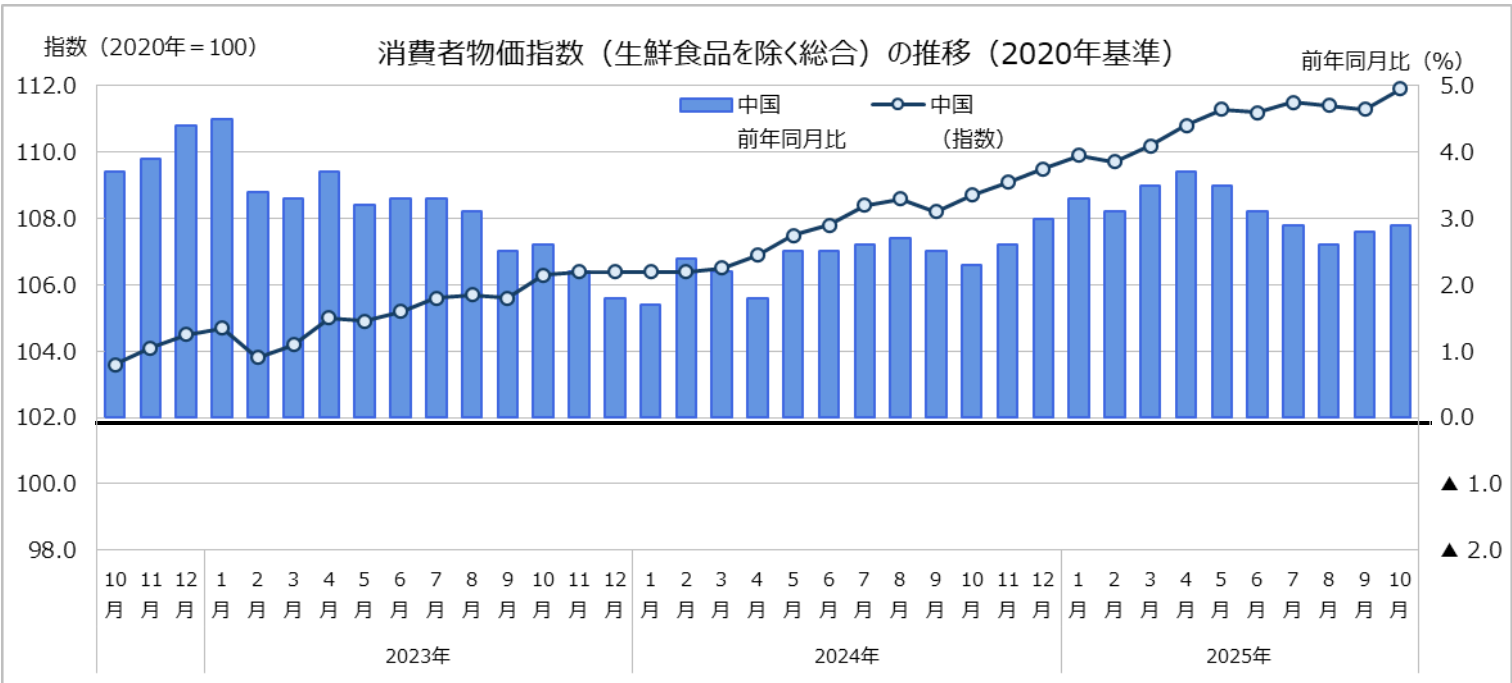
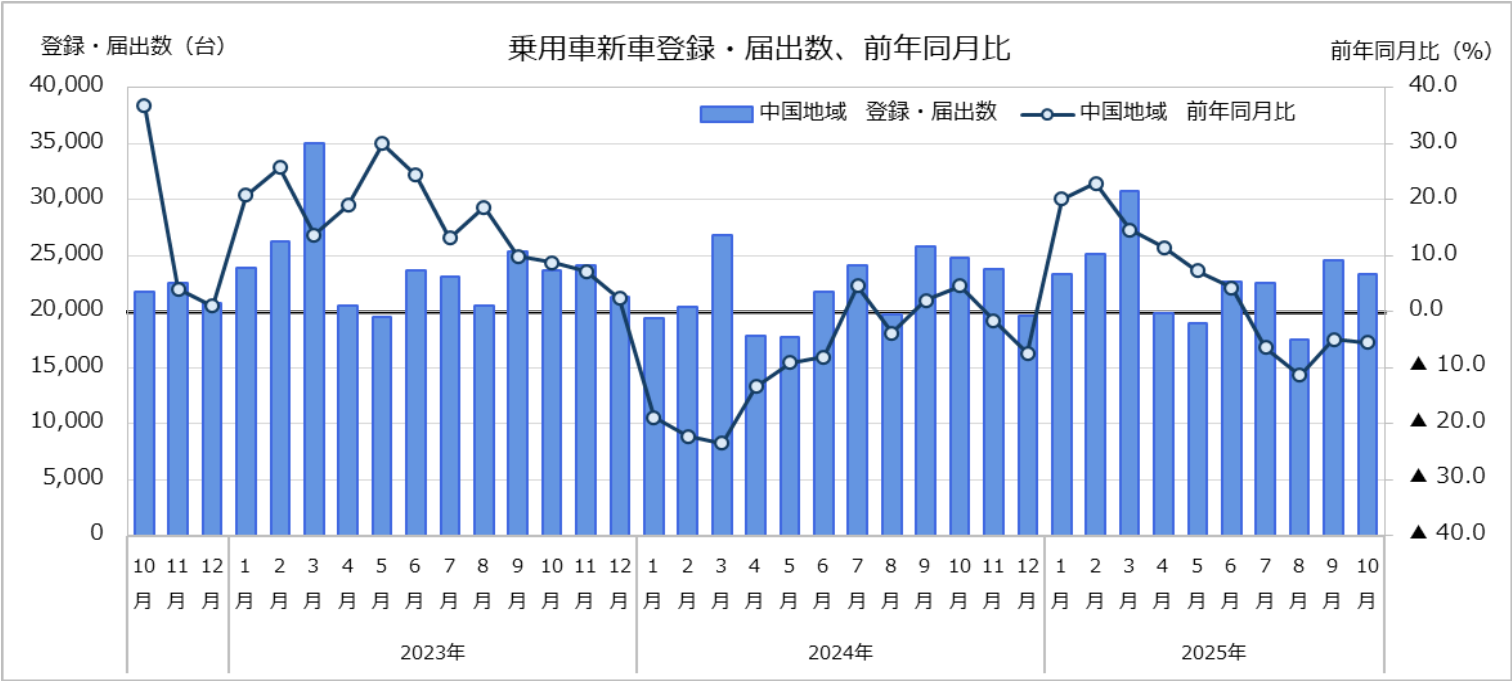
2025年10月の乗用車新車登録・届出数は、軽乗用車が前年同月を上回ったものの、普通乗用車、小型乗用車が前年同月を下回り、合計では前年同月比▲5.5%と4か月連続で前年を下回った。

(資料) 中国運輸局資料をもとに中国経済産業局作成

●消費者物価指数（中国地域）

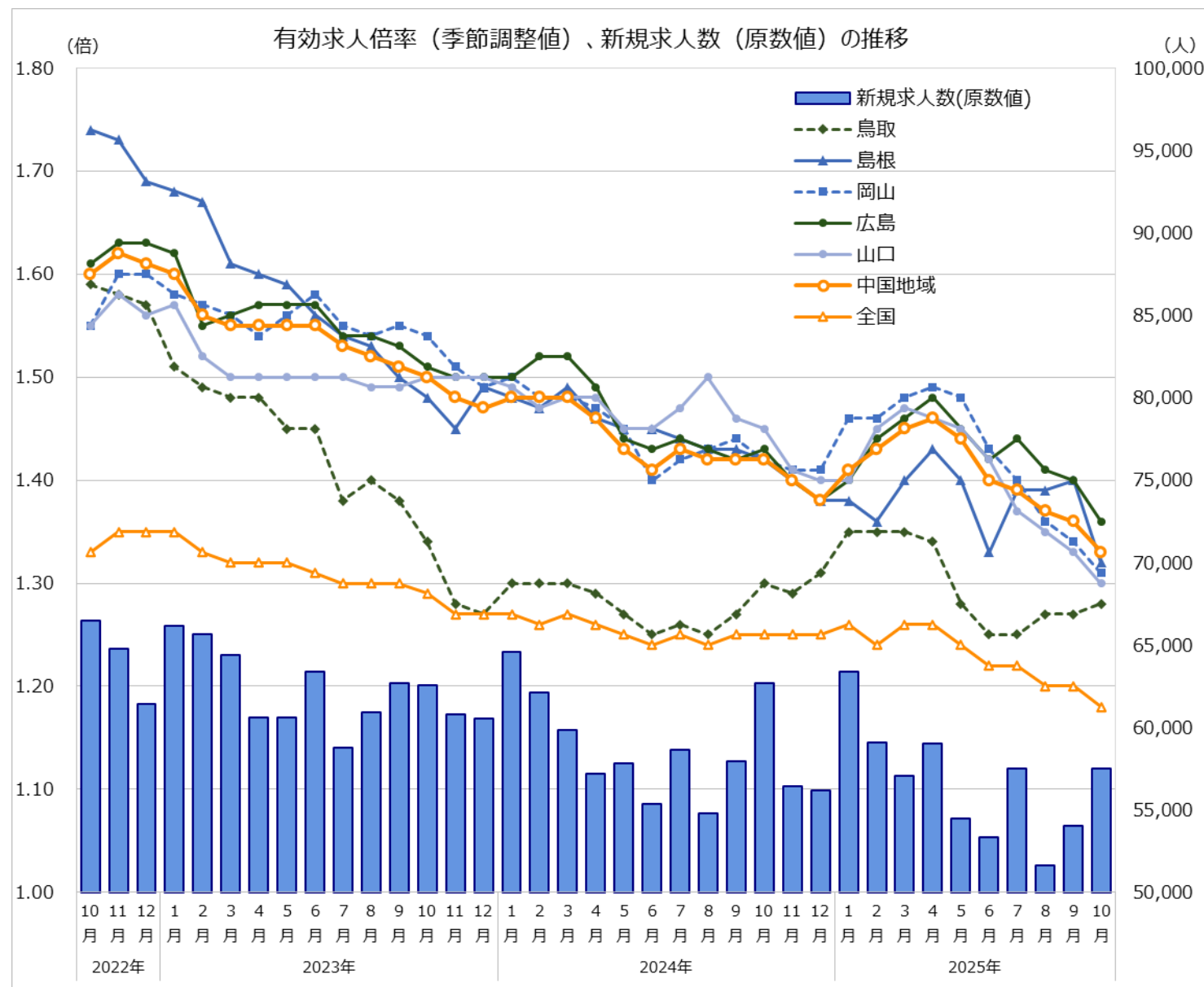
2025年10月の消費者物価指数（生鮮食品を除く総合指数）は前年同月比2.9%の上昇となった。

(資料) 「消費者物価指数」（総務省）



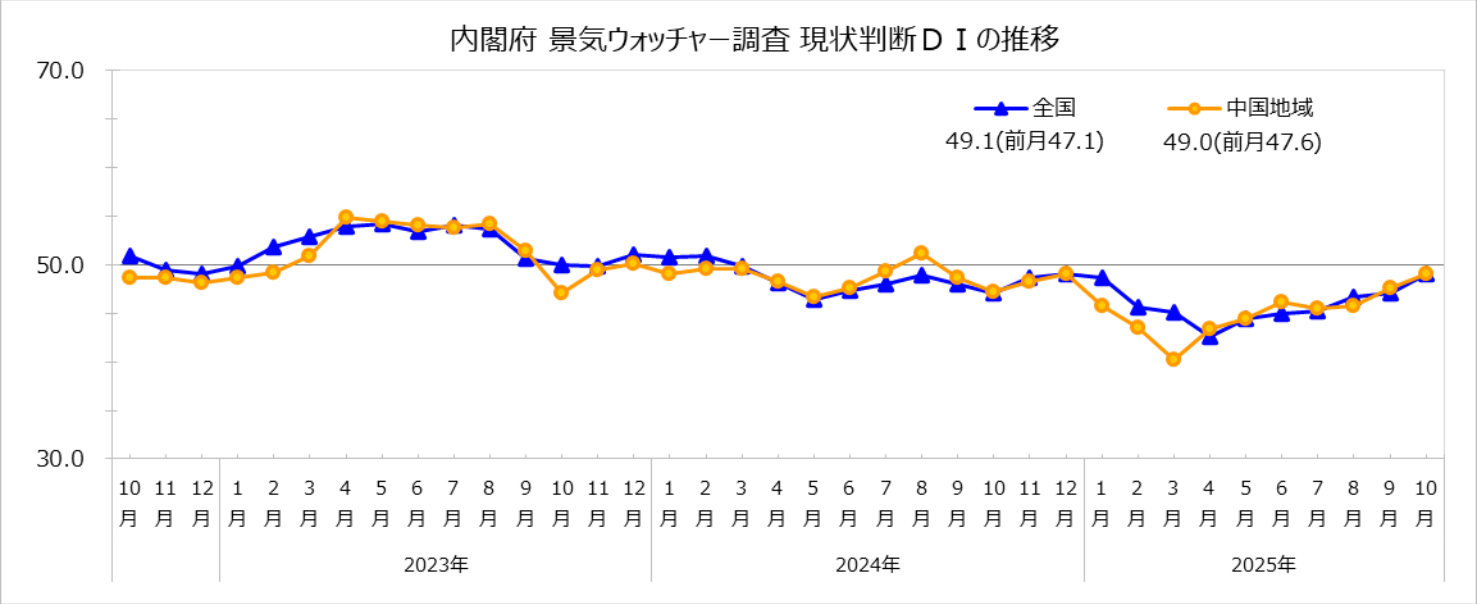
3. 雇用 ～有効求人倍率は前月に比べ低下、新規求人数は前年同月比で減少～

2025年10月の有効求人倍率は、1.33倍で前月の値を0.03ポイント下回り、6か月連続の低下となった。
また、新規求人数（原数値）は、前年同月比▲8.3%で6か月連続の減少となった。

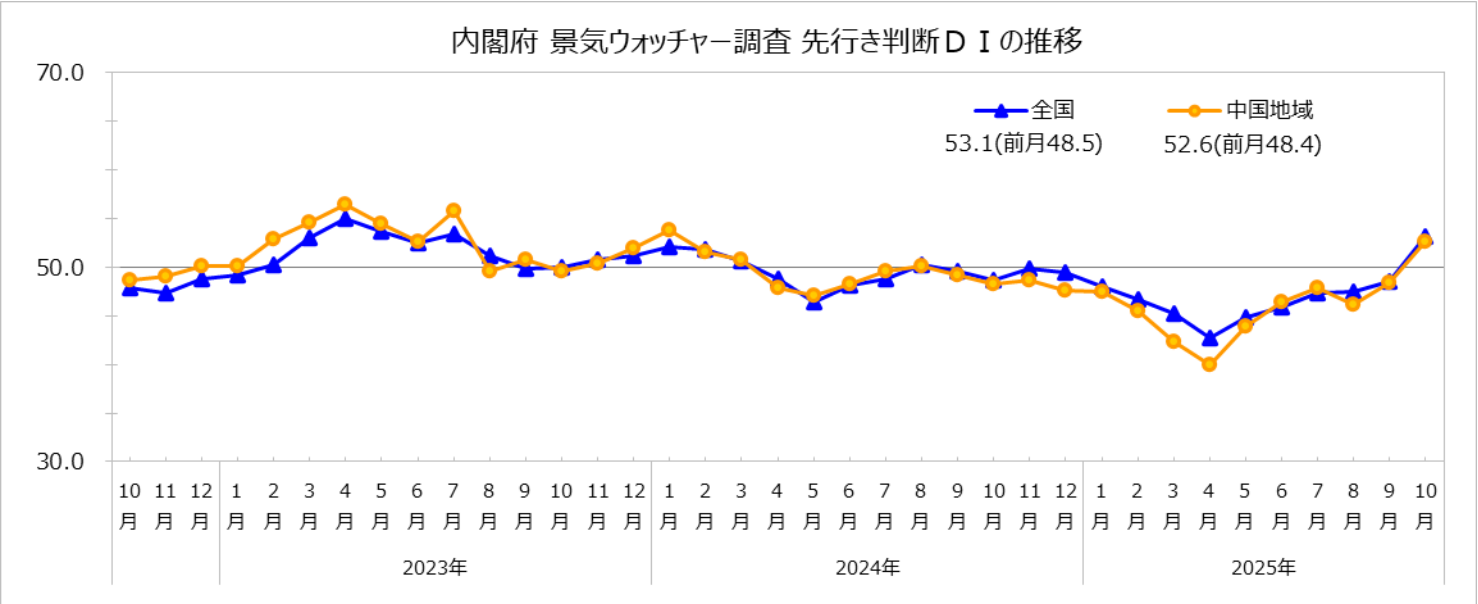


4. 景況感 ～現状、先行きともに前月に比べ上昇～

内閣府の景気ウォッチャー調査（令和7年10月調査結果）によると、中国地域の3か月前と比較しての景気の現状に対する判断D I（方向性）は49.0となり、前月差1.4ポイントの上昇となった。



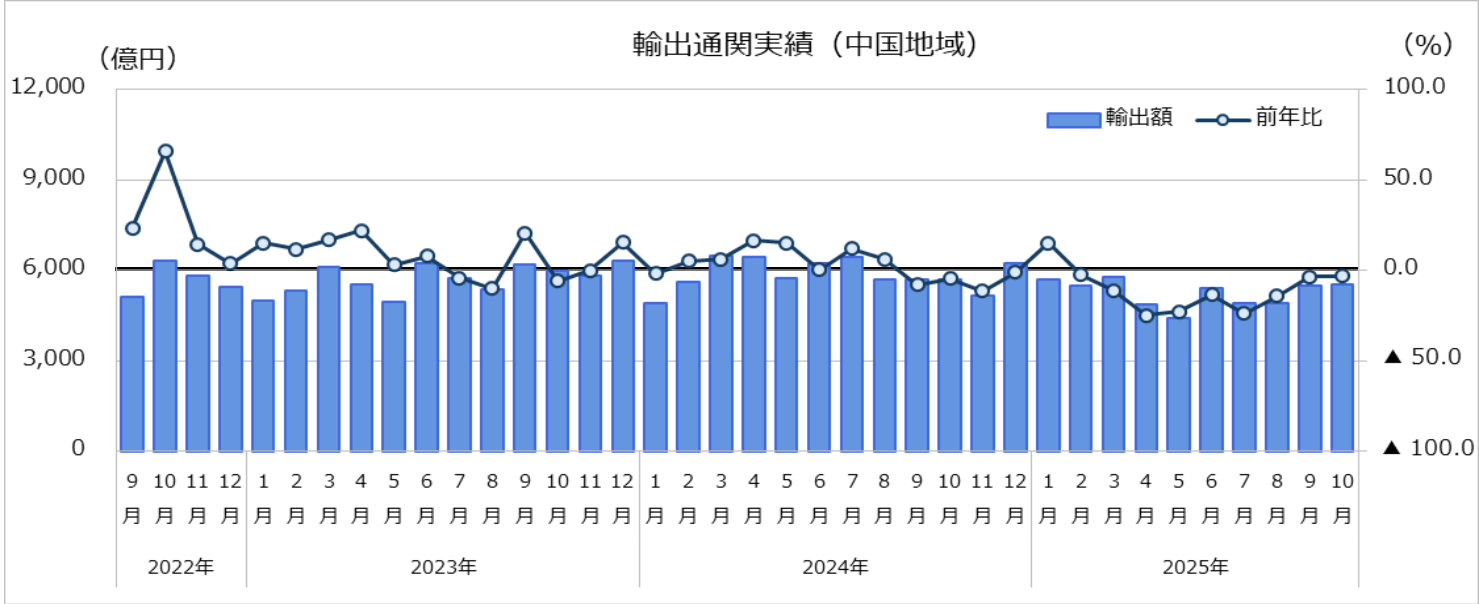
2～3か月先の景気の先行きに対する判断D I は52.6となり、同4.2ポイントの上昇となった。



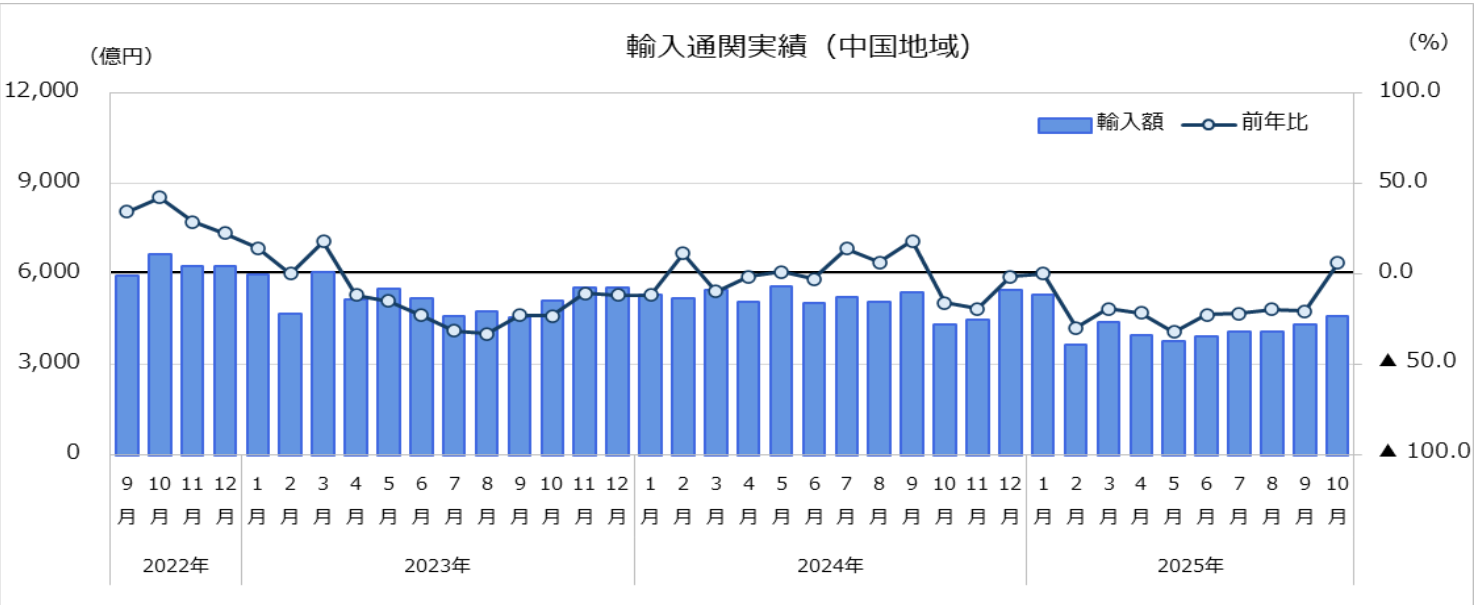
（資料）「景気ウォッチャー調査」（内閣府）

5. 貿易 ～輸出は前年同月比で減少、輸入は増加～

2025年10月の輸出は、前年同月比▲3.1%と9か月連続で前年を下回った。
品目別では、半導体等製造装置、有機化合物などが前年を下回った。
地域別では、アジア、西欧向けなどが前年を下回った。



2025年10月の輸入は、前年同月比6.2%と9か月ぶりに前年を上回った。
品目別では、金属鉱及びくず、石炭などが前年を上回った。

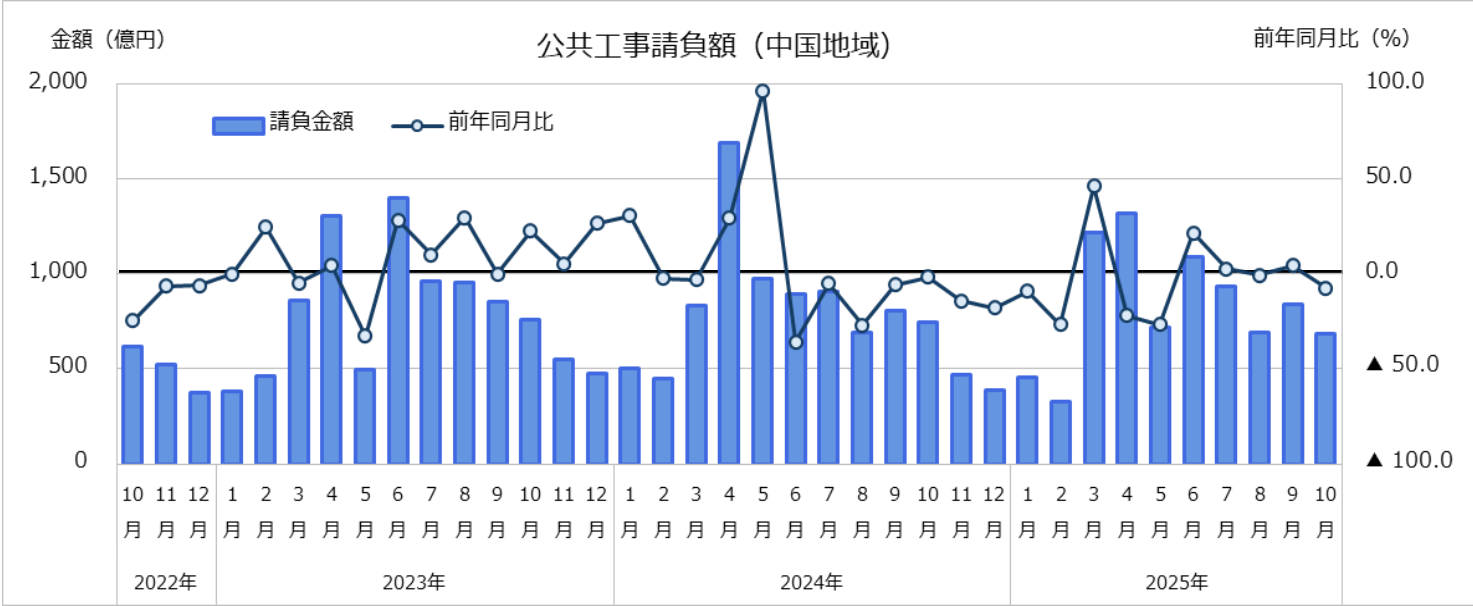


（資料）「中国圏貿易統計」（神戸税関）

6. 建設動向 ～公共工事は前年同月比で減少、住宅建設は前年同月比で増加～

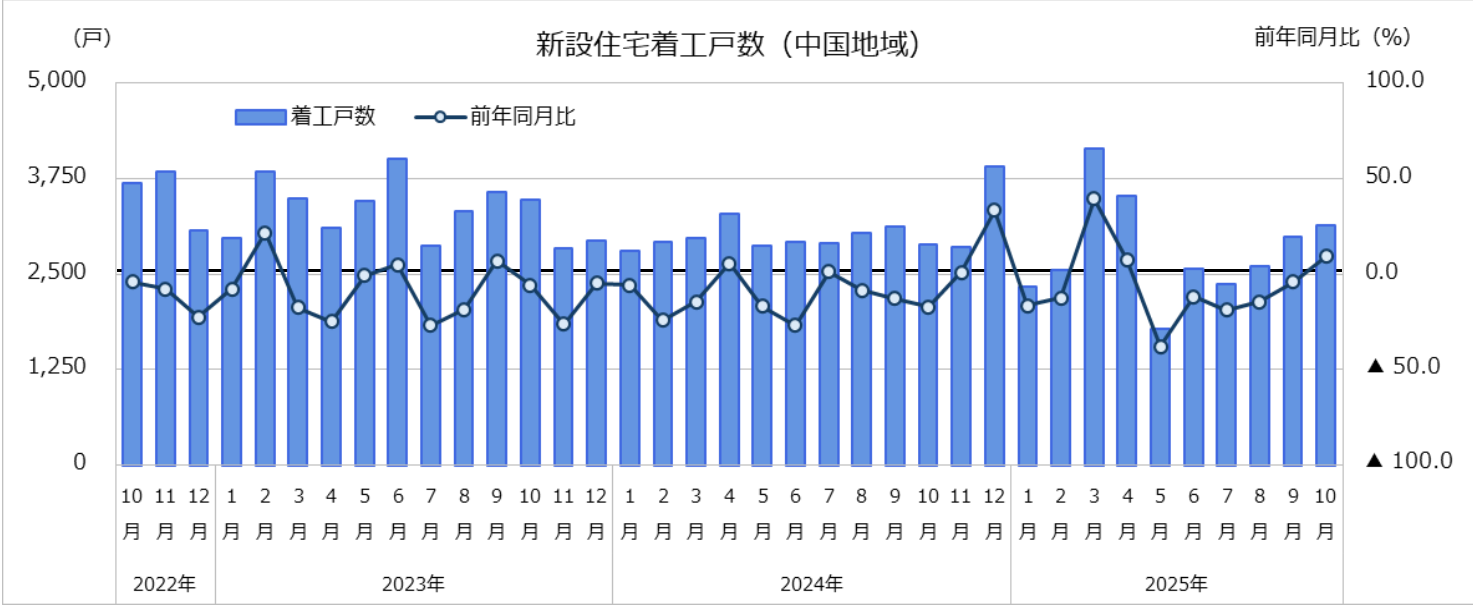
2025年10月の中国地域の公共工事請負金額は、国、県で前年を上回ったものの、独立行政法人等、市町村、その他公共的団体で前年を下回った。合計では前年同月比▲7.6%と2か月ぶりに前年を下回った。

(資料) 西日本建設業保証(株)広島支店



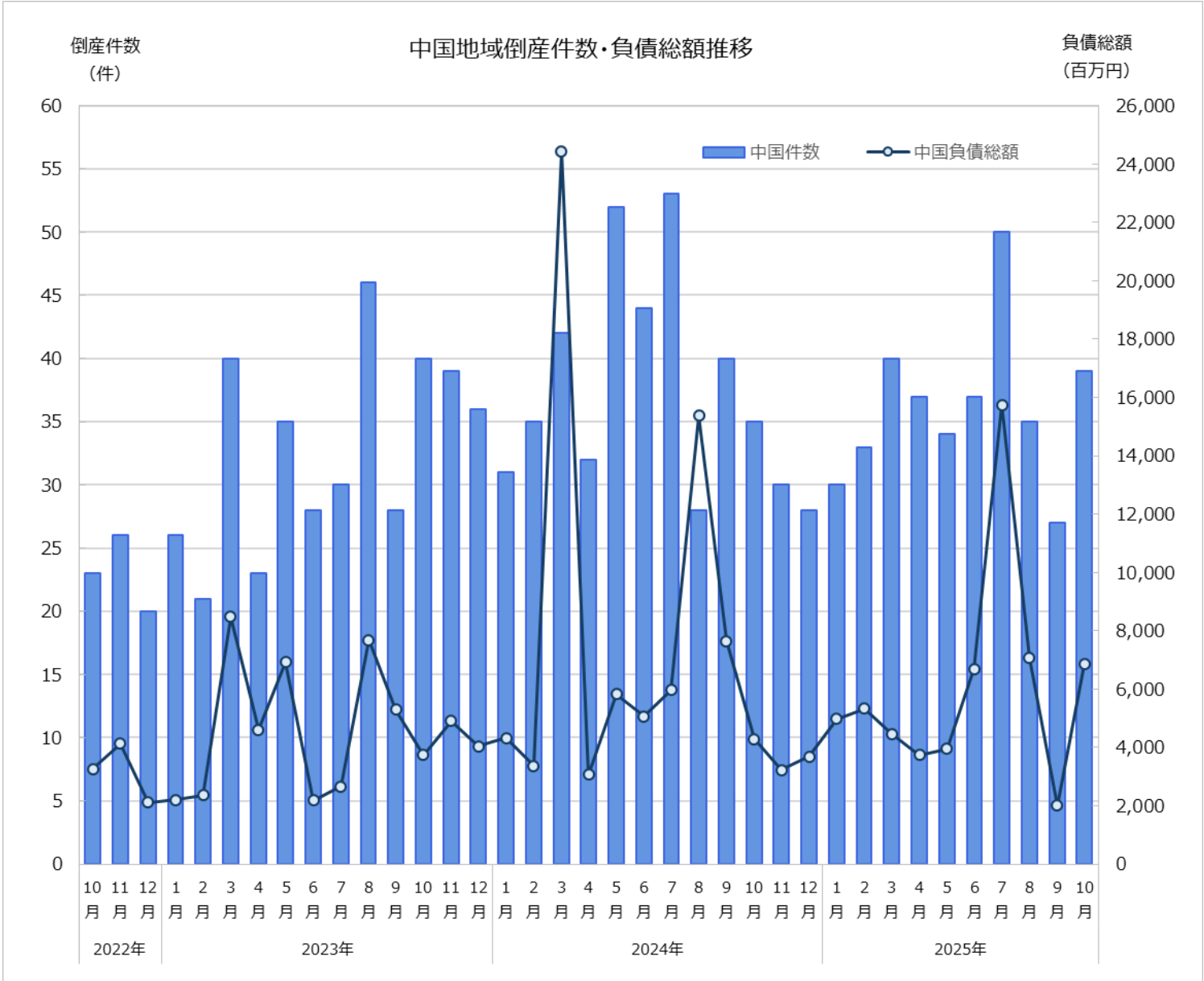
2025年10月の新設住宅着工戸数は、持家、貸家、給与住宅で前年を下回ったものの、分譲住宅で前年を上回った。合計では前年同月比9.2%と6か月ぶりに前年を上回った。

(資料) 「建築着工統計調査報告」 (国土交通省)



7. 企業倒産 ～件数、負債総額とも前年同月比で増加～

2025年10月の企業倒産件数は39件で、前年同月比11.42%と2か月ぶりに前年を上回った。
また、負債総額は68億5,900万円で、前年同月比59.66%と3か月ぶりに前年を上回った。
業種別にみると、サービス業他が13件、建設業及び製造業が8件、卸売業が5件などとなった。
原因別にみると、販売不振が32件、過小資本及び既往のシフ寄せが2件、他社倒産余波、売掛金回収難及びその他が1件となった。



(資料) 「中国地区企業倒産状況」 ((株)東京商工リサーチ)

8. 設備投資 ～2025年度計画は前年度を上回る見込み～

日本銀行広島支店の企業短期経済観測調査結果(2025年9月)によると、2025年度の設備投資計画(含む土地投資額)は、製造業が前年度比27.0%、非製造業が同▲6.2%となり、全産業では同9.7%となっている。

(注) 横軸に初回調査(3月調査)から実績が確定する翌年6月調査までの6調査回を取り、毎年度の設備投資計画について、調査回毎の前年比の足取り(修正パターン)をグラフで示したもの。

